兵庫県豊岡市但東町

# 豊岡市立日本・モンゴル民族博物館年報

第 16 号（平成 26 年度）

Annual Report of the JAPAN MONGOLIA Folk Museum

No. 16（for the fiscal years of 2014）

# あ　い　さ　つ

平成26年度は､当館の存在を広く周知すべく情報発信に力を注いだ年でした。

在大阪モンゴル国総領事館を始め、駐日モンゴル国大使館などモンゴル関係機関･団体との連携などでＰＲに努めました。具体的には、関西在住のモンゴル関係者懇親会での交流とＰＲ、モンゴル国出身横綱の来館や、商工会青年部によるモンゴル交流イベント、モンゴル相撲大会など、多種多様にわたる事業を展開しました。

８月には、恒例のモンゴル友好訪問使節団（中学生７名、引率３名）を派遣しました。４家庭に分かれてホームステイ、ウランバートル市内中学校での交流、日本大使館訪問、ゲルの宿泊体験など、大草原の国モンゴルを大いに楽しみ交流を深めました。

さらに、平成 26 年度は企画展を３回開催、これまでの企画展は 66 回を数え、小さなまちの大きな国際交流を標榜しながら、モンゴルの歴史や文化を広く紹介してきました。10 月 19 日には、大相撲横綱「鶴竜関」が来館し、館内を観覧。異国の地での貴重なモンゴル民族資料に驚いた様子で、「今後各地でＰＲしたい」とのコメントもいただきました。また、国内では、大胆な経済政策や防衛政策の転換など新たな動きが顕在化した年であり、年末には現政権の経済政策等を問う衆議院議員総選挙も実施され、結果は現政権継続の形となりました。入館者数については、残念ながら前年度より 640 人、6.0%の減となりました。今後は、博物館本来の使命である文化振興はもとより、モンゴル交流を進めている民間団体や行政機関とも連携して、来館者数増に努めるとともに、地域の拠点としての日本・モンゴル民族博物館を目指します。

平成 27 年３月 31 日

豊岡市立 日本・モンゴル民族博物館
館　長　植 田 政 由

# 目　　次

Ⅰ．平成 26 年度概要・・・・１

Ⅱ．展覧事業・・・・・・・　１
1.常設展
2.企画展

Ⅲ．資料収集保存事業・・・　４
1.寄贈
2.資料の貸出
3.資料の燻蒸

Ⅳ．普及教育事業・・・・・　５
1.出前授業
2.体験教室、講座の開催
3.イベントの開催
4.教師のトライやる・ウィークの受入
5.情報の発信と公開

Ⅴ．国際交流事業・・・・・　７
1.モンゴル国との国際交流
2.モンゴル国友好訪問使節団の派遣
3.使節団員レポート

Ⅵ．管理運営・・・・・・・・・ 19
1.組織・職員
2.予算の概要（決算額）
3.利用状況
4.施設管理
5.博物館協力会
6.各種委員会委員等の受諾
7.博物館ネットワーク
8.博物館日誌抄
9.お客様の声から抜粋
10.豊岡市立日本･モンゴル民族博物館の設置及び管理に関する条例
11.施設概要
12.交通案内
13.利用案内

# Ⅰ.平成 26 年度概要

平成 26 年度は、本館の存在を広く知ってもらうべく、日本・モンゴル民族博物館基本計画を策定し、情報発信に特に力を入れた新たなスタートの年であった。各種イベントに出店してのＰＲや、駐日モンゴル国大使館、在大阪モンゴル国総領事館などとの連携。また、交流事業として、恒例のモンゴル友好訪問使節団（中学生７名、引率者３名）を派遣した。

展示事業では、「西村幹也写真展　トナカイと共に生きる人々」、「駄菓子屋　縁日　なつかしの玩具」、「-いのる- 土鈴と縁起物」の、さまざまな分野の企画展を３回開催、また市内各小学校への出前授業や来館を通じ、教育普及活動に努めた。通常の業務は、展示活動や資料収集・調査・施設管理・教育普及活動を中心に行い、さまざまな関係機関との連携をより密にする取組みに力を注いだ年でもあった。

また、開館以来、長年の懸案であった当館所蔵品の台帳整備に着手し、その基礎づくりの年であった。来年度以降、数年を要する大事業であるが着実に進めなければならない。

さらに、今年度もボランティアグループの協力を得て、博物館前にオープンガーデンや案山子人形の設置、「資母宝まつり」、「どんど焼き」など、地域づくり団体や地区公民館との共同事業を実施した。市では、地区公民館の区域を単位とした新しい地域コミュティづくりを推進しており、より地域と連携し協働した取組みが重要となる。

入館者数については、道路網整備による人の流れの変化などで、対前年度比 94.0%、640 人の減となった。厳しい市財政事情の中で、入館者数増が今後の大きな課題である。

# Ⅱ.展覧事業

１．常設展

（1）常設展示の構成

博物館の常設展示は、Ａ棟のたんとうの森、Ｂ棟のアジアの歴史と風土・モンゴル草原のいのり、Ｃ棟のモンゴル草原の暮らしと文化、伝承文化体験交流館の豊岡市たんとうの暮らしから構成されている。

①たんとうの森・・・人口樹林を配し、平安時代前期の朽木仏像５体を展示

②アジアの歴史と風土・・・新石器時代から近代までの歴史資料を展示

③モンゴル草原の暮らしと文化・・・ゲルとよばれる移動式住居を中心に、衣・食・住など様々なテーマに分けて展示

⑤モンゴル草原のいのり・・・チベット仏教の寺院を再現し、仏像・仏具などを展示

⑥伝承文化体験交流館・・・山里の暮らしと文化をテーマに、豊岡市但東町

の歴史・住まい・暮らし・民話などを展示

(2) 常設展の更新

当館では、開館10周年に企画した特別展を契機に、常設展の大幅な更新を行い、より利用しやすいように工夫してきた。平成20年度からは、部分的な手直しにとどめている。平成26年度は、次の部分について実施した。

① 博物館大屋根の雨漏り防止工事

大屋根北側の舳先部分のシーリング工事を実施した。

② 伝承文化体験交流館のエアコン基板取替え

耐用年数を経過したエアコンの基板を取り替えた。

(3) 屋外展示

① 山羊小屋　屋外の小屋に山羊２匹を飼育し公開している。

② 騎馬像（チンギス・ハーン）

③ ボランティアグループ「そよ風」により博物館前の広場に一昨年から、オープンガーデンを設置、公開している。来館者からも好評で、今後も継続される予定である。

(4) 展示解説の積極的な促進

展示資料をより深く理解いただくため、希望者には職員による館内のガイドを実施している。見学の一助となるよう、利用者の興味や目的に沿った分かりやすい解説を心がけている。

また、利用者からのアンケートを取り、要望がある場合はそれに沿えるよう努力している。

２．企画展

(1) 第64回企画展　西村幹也写真展2014　「トナカイと共に生きる人々」

平成26年４月17日～平成26年７月１日　67日間（見学者数　2,400人）

西村氏が20年余りにわたり撮影し続けたモンゴルの自然や風景、人々の暮らしの中から、タイガという地域で“トナカイと共に生きる人々”をテーマにした写真を紹介した。

(2) 第 65 回企画展　駄菓子屋　縁日　「なつかしの玩具」

平成 26 年 7 月 5 日～平成 26 年 10 月 7 日　84 日間（見学者数　2,445 人）

懐かしい、昭和初期から平成にいたる玩具を展示した。

(3) 第 66 回企画展　-いのる-　土鈴と縁起物

平成 26 年 10 月 11 日～平成 27 年 3 月 3 日

116 日間（見学者数　4,204 人）

人々は、日々の生活の中で五穀豊穣・無病息災・招福・厄除けなど、良いことがあるようにと祈り願う。社寺で授与されることが多い土鈴や縁起物から、祈るこころを考える。

# Ⅲ．資料収集保存事業

当館の所蔵資料は、約２万点以上に及ぶ国内外の資料で構成されている。寄贈されたモンゴル民俗資料１万５千点、考古資料５千点を基礎資料としながら、旧但東町民俗資料館が収集保管してきた資料、また個人が大切に保管されていたもので寄贈または寄託いただいたもの、モンゴル国内や全国各地から寄贈いただいた資料を収蔵している。

資料の収集は、寄贈・寄託・購入・採集・交換など、さまざまな方法で行っている。当館は、郷土やモンゴルの自然・歴史・民族・文化に関する資料を収集するとともに、それぞれの分野でのテーマに応じ、比較資料となる国内外の資料も収集対象としている。

１．寄　贈

(1) 寄贈資料（敬称略・順不同）

【個人】

森　　修（宮城県仙台市）→書籍「モンゴルの日本式高校」

森川郁子（京都市山科区）→書籍「草原の国から　モンゴルの 990 日」

瀬崎　彊（豊岡市）→書籍「型紙の美」ほか４点

スーチンドロン（篠山市遠方、モンゴルの里)「ゲル一式」

【団体】

無し

２．資料の貸出

(1) 但馬国府・国分寺館

赤坂 1 号墳石室模型

(2) 東京都　（株）エイジャ

書籍再販に伴う、展示物の画像使用

(3) 但東町商工会青年部

モンゴル民族の帽子（男子用）

(4) 豊岡市　由利佳一郎

モンゴル民族衣装（男性用フレム）

(5) 大阪大学言語文化研究科、今岡良子准教授

モンゴル民族資料の木桶、籠など（展示用）

３．資料の燻蒸

平成 26 年度は、それぞれ年２回ずつ、害虫駆除センター・クリーン有限会社にて全館を対象にピレスロイド系殺虫剤、有機リン系乳剤を噴霧し、殺虫・防虫処理をした。また、収蔵庫内においても、年３回蒸散剤を設置し、殺虫・防虫処理を実施している。

# Ⅳ．普及教育事業

1．出前授業

学校からの依頼に応じて、学校での授業に職員を派遣する出前授業を平成 12 年度から実施している。授業では教員と協同し、持参した博物館資料を活用するなど、児童・生徒の理解を助けるよう工夫した。

市教育委員会の方針に沿い、豊岡市内の小学校 24 校を対象に出前授業を実施した。

| 日　付 | 学　校　名 | 内　容 |
|---|---|---|
| ①12 月 16 日 | 豊岡市立日高小学校 2 年生 88 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ② 1 月 16 日 | 豊岡市立豊岡小学校 2 年生 69 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ③ 1 月 23 日 | 豊岡市立高橋学校 2 年生 8 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ④ 1 月 26 日 | 豊岡市立府中小学校 2 年生 43 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ⑤ 1 月 27 日 | 豊岡市立八条小学校 2 年生 75 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ⑥ 1 月 29 日 | 豊岡市立合橋小学校 2 年生 14 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ⑦ 1 月 30 日 | 豊岡市立田鶴野小学校 2 年生 27 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ⑧ 2 月 3 日 | 豊岡市立中筋小学校 2 年生 19 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ⑨ 2 月 5 日 | 豊岡市立寺坂小学校 2,3 年生 7 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ⑩ 2 月 6 日 | 豊岡市八代小学校 2 年生 7 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ⑪ 2 月 9 日 | 豊岡市立中竹野小学校 2 年生 6 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ⑫ 2 月 10 日 | 豊岡市立三江小学校 2 年生 23 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ⑬ 2 月 13 日 | 豊岡市立神美小学校 2 年生 13 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ⑭ 2 月 16 日 | 豊岡市立港東小学校 2 年生 13 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ⑮ 2 月 17 日 | 豊岡市立新田小学校 2 年生 29 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ⑯ 2 月 19 日 | 豊岡市立福住小学校 2 年生 23 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ⑰ 2 月 20 日 | 豊岡市立五荘小学校 2 年生 114 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ⑱ 2 月 23 日 | 豊岡市立城崎小学校 2 年生 34 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ⑲ 2 月 24 日 | 豊岡市立港西小学校 2 年生 20 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ⑳ 3 月 26 日 | 豊岡市立静修小学校 2 年生 13 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ㉑ 2 月 27 日 | 豊岡市立小野小学校 2 年生 12 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ㉒ 3 月 3 日 | 豊岡市立小坂小学校 2 年生 23 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ㉓ 3 月 5 日 | 豊岡市立奈佐小学校 2 年生 13 名 | 「スーホの白い馬」 |
| ㉔ 3 月 6 日 | 豊岡市立三方小学校 2 年生 24 名 | 「スーホの白い馬」 |

２．体験教室・講座の開催

| 開催日 | 教室名 | 参加者数 |
|---|---|---|
| ① 7 月 28 日 | やきもの | 9名 |
| ② 7 月 31 日 | モザイクでお絵書き | 13 名 |
| ③ 8 月 3 日 | 木工 | 6名 |

④ 8月 5 日　お絵かき風鈴作り　５名
⑤ 8月 19 日　おもちゃを作って遊ぼう　８名
⑥ 8月 21 日　マグカップに絵を描こう　32 名
⑦ 3月 8 日　やきもの教室　19 名

合計 7講座 92 名

３．イベントの開催

平成 27 年３月１日

恒例となった、「まるごとモンゴル雛祭り」を博物館内で開催し、「遊牧の民の調べコンサート」もあわせて開催。コンサートはこの外２ヶ所でも開催した。

４．教師のトライやる・ウィークの受け入れ

資母小学校の教師１名を受け入れ、山羊の飼育、収蔵品の整理、博物館周囲の環境整備などに取り組んだ。

５．情報の発信と公開

博物館を有効に利用できるよう、博物館活動に関する様々な情報を発信していくことは重要な活動のひとつである。最近はインターネットによる情報発信を行っており、昨年度開設したフェイスブックも重要な手段となっている。

博物館の事業の広報に留まらず、様々なメディアを通じて積極的に情報を発信するよう努めている。

(1) 博物館の広報活動

① 博物館案内などの主な定期発送先

各小学校、豊岡市各地区公民館、報道関係機関など。

② 報道機関への資料提供

③ 旅行会社への資料提供

④ 5/4,5 在日本モンゴル留学生の春まつり、ハワリンバヤル（東京都内で開催）に職員が出向き、当館をＰＲした。

※10 月に開催された、モンゴルの秋祭り関西版ナマリーンバヤル（国立民族学博物館で開催）は、台風襲来のため欠席した。

⑤11/2　資母地域の「宝まつり」の会場で当館のＰＲを行った。

⑥1/12　どんど焼き＆雪まつり（資母公民館、地域づくりの会･しぼとの共催事業）

(2) インターネットによる情報提供

① 電子メール

② ホームページ

インターネット利用者の増加に伴い、博物館でもその技術を活用した情報提供の可能性を探ってきた。平成 11 年８月 16 日からホームページ、平成 25 年度から、フェイスブックを開設している。

http:／／www3.city.toyooka.lg.jp／monpaku／index.html

httpｓ:／／www.facebook.com/monmuseum

ホームページの内容は下記のとおりである。

・博物館の沿革と経緯
・交通案内・利用案内
・収蔵資料
・展示室紹介
・国際交流
・イベント情報
・ミュージアムショップのご案内

ホームページの更新や追加は、毎月の催し物案内のように定期的に行うもののほか、各担当により随時行っている。

# Ⅴ．国際交流事業

1．モンゴル国との国際交流

モンゴル国との交流については、隔年で中学生相当年齢のモンゴル国研修生の受け入れ、友好訪問使節団の派遣、豊岡市国際交流事業への協力、各種イベントの開催など、多くの方々との関わりのもと継続して行っている。

（平成 26 年５月４～５日）

在日本モンゴル留学生の春まつり、ハワリンバヤル（東京都内で開催）に職員が出向き、当館をＰＲした。

（平成 26 年 10 月 19 日）

大相撲横綱「鶴竜関」が巡業の途中に来館。館内のモンゴル民族資料を熱心に観覧され、今後のＰＲ協力のコメントもいただいた。横綱の幟を掲揚し、コウノトリ米など豊岡市の土産も手渡した。後日、横綱「鶴竜関」のコーナーを設け、動画を流し写真も掲げた。

（平成 27 年２月 27 日～３月１日）

馬頭琴奏者ドルジパラム氏、ドンブラ奏者クグルシン氏、NPO 法人しゃがぁ理事長西村幹也氏の受入。滞在期間中にイベント「まるごとモンゴルひな祭り」でミニコンサートを開催。その外２ヶ所（観光施設、地区公民館）でも「遊牧の民コンサート」を開催した。

２．モンゴル国友好訪問使節団（中学生など）の派遣

平成 26 年度は、豊岡市内の中学生７名、引率３名、一般参加１名の友好訪問団を派遣した。ウランバートル市内でのホームステイ、観光用ゲルの宿泊などで、大草原の国モンゴルを体験し、また、市内中学校や日本大使館の訪問などで貴重な交流を経験した。

8/1　関西国際空港出発、ウランバートルに到着、歓迎交流会（ホテル泊）
8/2　ホストファミリー宅へ移動、共に過ごす。（同宅に宿泊）
8/3　ホストファミリーと市内観光などで終日過ごす。（同宅に宿泊）
8/4　「13 世紀のモンゴル村」などを訪問（観光用ゲル宿泊）
8/5　「フスタイ国立公園」などを訪問、乗馬体験など（観光用ゲル宿泊）
8/6　ウランバートル市内のナラン中学校を訪問し交流（ホテル泊）
8/7　日本大使館訪問、ガンダン寺などを観覧。送別会（ホテル泊）
8/8　関西国際空港に帰国、豊岡着

３．使節団員レポート

「第 11 回モンゴル国友好訪問使節団を終えて」

団　長　／　谷　岡　慎　一

雄大な国、モンゴル。このモンゴルと但東町、そして合併後は豊岡市が長年にわたって友好関係を築いてきており、そのような中で第 11 回のモンゴル国友好訪問使節団が実現しました。今回訪問した中学生も、モンゴルがはじめての生徒ばかり。海外旅行自体はじめての生徒もいて、緊張と期待に胸をふくらませてのモンゴル入国となりました。

経済発展が続く喧騒の中のウランバートルは、一歩郊外に出ると雄大な草原。

そのコントラストが、今でも鮮やかに記憶によみがえります。最も滞在時間の長かった首都ウランバートルは、山に囲まれた盆地ですが、都市の膨張が続き、遠くの山裾まで家が立ち並んでいます。市街地には、近代的な家や高層ビルも建っていますが、ゲル（伝統的な移動式の家屋）を持ち込んで住んでいる人もいます。家の周りには、塀が作られ隣との境を設けています。

日々膨張を続けるウランバートルを出ると、そこは雄大な草原の世界。見渡す限りの草原に、ゲルが２つ３つしか見当たりません。隣のゲルまで行くには、数十キロあるというのが普通のことのようです。当然、その場に定住し続けているのではなく、移動して暮らしています。まさに、遊牧の民として悠久の歴史を紡いでこられました。豊岡という地方都市、地方から来た私どもからすると、地域に集落がほとんど見当たらず、ウランバートルを除いては恒久的な建造物もあまり見られない、無限の草原が広がる姿は大きなカルチャー・ショックを与えるものでした。

８日間という限られた期間でしたが、ウランバートルでの歓迎会、モンゴルの一般家庭でのホームステイ、ゲルに宿泊したツーリストキャンプ、一旦は絶滅した野生馬（タヒ）を野生復帰させたフスタイ国立公園、ウランバートル市内のナラン学校との交流、日本大使館への訪問とたくさんの体験をいたしました。これら多彩な経験は、関係された皆様方のさまざまなご尽力があって実現したものばかりです。そして、中学生にとっては、初めて経験するものばかりでありました。

これまで、モンゴルとの友好関係の構築に携わってきた豊岡・但東の方々の多くの名をモンゴルのみなさんからお聞きし、これまでの強い結びつきの歴史を感じる機会ともなりました。こうしたこれまでの歴史を踏まえて、今回の友好訪問団の実現に際し、ご協力いただきましたモンゴルの皆様や関係者の皆様に改めて感謝を申し上げ、今後さらにモンゴルとの友好が深まっていくことを祈念いたします。

---

「モンゴルを訪ねて」

豊岡南中学校２年　／　赤　松　亜　依

はじめての海外。今まで当たり前だと思いながら生活してきた日本を離れて、日本の良さや外国の良さを知りたいと思い、モンゴルへ行くことを決意しました。８日間は、本当にあっという間でした。日本を思い出す暇もないくらい、次から次へと初めての体験。楽しいことも戸惑うこともたくさんありました。

人口の半分以上が集中しているという首都ウランバートル。日本製の車がたくさん走る道路を牛などの動物がのんびりと横切る様子は不思議な光景でした。しかし、車でほんの少し走るだけでそこには大草原が広がり、ゲルが立ち並ぶ大自然の中の別世界がありました。５日目の早朝、ゲルから外に出て日の出を見ました。ゆっくりと美しい太陽が登る姿には、言葉も出ないくらい感動しました。時

間がとてもゆっくりと過ぎていくように感じました。夜には、今まで見たことがないくらいの数の流れ星を見ました。大草原には、何百頭もの牛や羊などがいました。自然の中に、たくさんの動物が放し飼いにされているこのような光景を私は今まで日本で見たことがありませんでした。この自然の美しさは、ずっと残しておいてほしいモンゴルの宝だと思いました。

自然の美しさに驚き感動したと同時に、私はモンゴルの人々の優しさにもたくさん触れ、心温まる時間を過ごすことができました。ホームステイ先では、バトドルジさんたちに温かく迎えていただき、思い出に残る体験をたくさんさせていただきました。ラグワーさん家族と行った遊園地で過ごした時間が、私は一番楽しく心に残っています。しかし一方で、ホテルで突然お湯が出なくなったことや、赤信号を無視して道路を横断する人の多さ、お店などでの日本とのサービスの違いなどには、本当に驚きました。今回の旅を体験して、私は、日本についても海外の国についても、知らないことがまだまだたくさんあるのだということに気付きました。

モンゴルから帰国した翌日から私は、「またモンゴルに行きたい！」と毎日思い続けています。実際に行くことができるのは、ずっと先かもしれません。でもその時に、お世話になったたくさんの人たちに会っても恥ずかしくないように、日本でしっかりと勉強をして、成長した姿が見てもらえるようにしていきたいと思っています。

今回、モンゴルへ行く機会を与えてくれた両親、８日間を共に過ごした６人の仲間、そしてたくさんのみなさんとの出会いに心から感謝しています。本当にありがとうございました。

---

## 「モンゴルで学んだ事」

日高東中学校３年　／　小　林　芹　菜

私がモンゴルに行こうと思った理由は、２つあります。１つは、ホームシックを克服したかった為で、もう１つは日本を離れて違う国の生活を体験し、いろいろな事を学びたかったからです。

出発前は、不安より期待が大きかったのですが、いざモンゴルに着くと急に不安になりました。なぜなら、初めての海外で分からない事ばかりで正直怖かったからです。初日と２日目はとにかく不安でしたが、３日目から環境にも慣れ、ホームステイ先の家族の方々とも交流を深める事ができました。私がご飯をあまり食べていないのを心配して、ホームステイ先の方が味噌汁を作って下さったのが、とてもうれしかったです。

８日間の中で一番印象に残っている事は、ホームステイ先の方と行った『ゲル」です。外見は観光用のゲルとあまり違いはなかったけど、中は全然違いました。

田舎だったので、すごく寒かったです。実際行ってみるまでのイメージは、日

中はとても暑く、どこを見ても草原というような所を想像していたので、少しびっくりしました。田舎のほうでは、日中でも少し肌寒かったです。

モンゴルでは、日が沈むのが日本より遅かったです。だから、星が見え始めるタイミングも違いました。午後 10 時半頃になると、星がたくさん見え始めます。日本では、なかなか見る事の出来ないような星空に感激でした。あんな星空を毎日見る事が出来るモンゴルの人達がうらやましかったです。

８日間も家族と離れて生活したのは今回が初めてだったので、最初は不安ばかりでしたが、友達と話をしたり、モンゴルの人達と交流する事が出来て、とても楽しく良い思い出になりました。また機会があれば、違う国にも行ってみたいと思いました。

---

「モンゴルに行って」

但東中学校３年　／　高　品　桃　香

学校でモンゴル国友好訪問使節団の話を聞いたとき、「絶対に行きたい」それが私の率直な感想でした。家族は、８日間も行くなんて大丈夫なのかと全く乗り気ではなく、申込用紙を捨ててしまっているような状態でした。何とか父と母を説得し、いざ行けると決まったときは、本当に行けるのかとうれしくてたまりませんでした。でも、喜びと同時に不安もありました。

８日間で体験できたこと、感じたことはたくさんあり、とても語りつくせませんが、その中で、私が最も印象に残ったホームステイ先でのことを伝えたいと思います。ホームステイと聞いて、家族の方とうまくコミュニケーションがとれるかな、どんなところに泊まるだろうかと不安でした。しかし、皆さん笑顔で出迎えて下さり、会った瞬間に不安はなくなりました。

ホームステイ初日は、モンゴル歴史博物館へ連れて行ってもらいました。とても広く展示品の数も多かったです。そこでは、初めて見るもの、知ることばかりです。例えば、部族によって服装や言葉が全く違うこと、ホールクという粉煙草の入った石の容器を交換してあいさつするという、日本でいう名刺交換の意味だということを教わりました。他にも、1980 年にロシア人と一緒に宇宙へ行ったモンゴル人がいることも知りました。これらすべて、ホームステイ先の奥さん、ムンフトヤさんが日本語で説明して下さり、とても勉強になりました。

ムンフトヤさんの親せきが住んでおられるゲルに宿泊させていただけるということで、車でウランバートル市内から離れ、草原の広がる田舎についたとき、私の想像していたモンゴルに来たのだと実感しました。実際に人が生活しているゲルに行けるとは思っていなかったので、ゲルでの生活や、子供たちと遊んだりして、とても楽しかったです。日本でも人気のあるドラゴンボールのカードで遊んでいる子供たちには、少し驚きました。

食べ物は、主に肉や乳製品でした。羊の肉を初めて食べましたが硬くて、日本

でいつも食べている牛や豚と比べて生臭く野生的な感じでした。でも、おいしくいただきました。

朝の５時くらいに起き、牛の乳搾りも体験させてもらいました。初めての乳搾りは想像以上に指に力が要り、牛もしっぽを振ったり動いたりしてとても大変でした。私は、全くといっていいほど搾ることが出来なくて、教えてもらい何度かやっていると、少しでしたが搾ることが出来て感激しました。さすがに遊牧民の方は慣れていて、私が搾る間にバケツ満タンに搾っていました。

ゲルでは、馬乳酒という牛の乳を発酵させた飲み物をいただきましたが、日本にある飲み物では例えようのない味で、とにかく酸味がきつく、日本人は苦手な味だと思います。

モンゴルの遊びで、しゃがいという羊のくるぶしの骨を使う遊びも教わりました。珍しかったのでお土産に買い、家でも遊んでいます。

草原の星空を期待していましたが、星はあまり見ることができませんでした。しかし、近くに木も山もない草原の空は、本当に地球は丸いんだと実感した広い空でした。

私がホームステイ中に経験した中で、一番衝撃的だったことは、羊とヤギが水の中へほうり込まれているところを見たときです。羊とヤギは、水の中でおびえて鳴き声をあげていて、とてもかわいそうでした。後で理由を聞くと、毛に虫がつくのでそれを殺虫するために、薬の入った水の中に入れるそうです。そうしないと病気になって痩せてしまうので、健康に生きていくためには必要なことなのだと教えてもらい納得しました。

滞在３日目の夜は、ウランバートル市内にあるホームステイ先の家に泊めていただきました。奥さんのムンフトヤさんは、日本が好きだということで、家には日本のごまドレッシングやみそ汁の素、シャンプーも置いてありました。モンゴルには、意外とたくさん日本のものがあるんだと驚きました。

ホームステイ中は、家族の方と楽しい時間が過ごせて、充実した２日間を送ることができました。滞在中、２度ミュージカルを見に行くことが出来ました。１度目は「トォッメンエヒェ」というミュージカルで、観光客のために毎日行っているそうです。会場が狭いので間近で歌や踊り、演奏しているところを見ることができ、とても迫力がありました。２度目に行ったところは広くて、モンゴルの独特なリズムの歌や踊りを見せてもらいました。出演者の方は、みんな笑顔で楽しそうで、見ている私も笑顔になる素敵な時間を過ごせました。

今まで体験したことないことや、初めて知ることもあり、すべてが楽しく、私の考えや世界観を広げてくれた８日間でした。モンゴルに行ったことのない人、今から行こうと思っている人がいるなら、友好訪問使節団として、一人でも多くの人にモンゴルのいいところを聞いてもらいたいと思っています。中学生最後の夏休みに貴重な経験が出来て、行ってよかったと思いました。

「モンゴル国友好訪問使節団に参加して」

豊岡南中学校２年　／　田　上　結　香

私が今回、第 11 回モンゴル国友好訪問使節団に応募しようと思ったきっかけは、『外国に行ってみたい』と言う単純な思いがきっかけでした。多数の応募者がいるだろうし、ダメもとで申し込みをしました。そんな私が、抽選で今回の第 11 回モンゴル国友好訪問使節団に当選したのです。私は半信半疑の思いで家に帰り、お母さんに『モンゴル当たったから行けるよ』と報告しました。お母さんは『よかったなぁ～！でも本当に大丈夫？やめるなら早く言わないと行きたくても行けない人がおんなるんだから』と言われて私は考えました。自分なりにモンゴルの事を調べてみると、なぜかひかれる物がありました。私は、モンゴルに行く事を自分自身で決めました。

しかし、なかなか準備は進みませんでした。その理由は、私がお母さん大好きだから離れたくない気持ちがあったからです。でも、お母さんが一緒に手伝ってくれたから、楽しく準備が完了しました。私は、楽しみな気持ちと不安な気持ちのまま出発の日を迎えました。いつもと変わらない白いご飯とお味噌汁が、今日はなぜかいつもより美味しく感じました。

沢山の人に見送られバスで豊岡を後にしました。私はバスの中で寂しくなって涙が出てきましたが、みんなと仲良くなって頑張ろうと思いました。初めて機内食を食べましたが、期待外れでした。でも、飛行機からの景色はとても綺麗でした。チンギスハーン空港に着くと入国審査を受けたのですが、モンゴル語で話されて何を言っているのか全く分からなかったです。

今日は、『歓迎パーティー』に参加です。シャンデリアがあるとても綺麗な会場だし、私は『モンゴルにもこんな所があるんだなぁ～』と思いました。モンゴルの料理は、とても量が多い事に驚きました。他には、料理にハエが止まったりしていて、日本の清潔さがとても良く分かりました。モンゴルの人は、優しくて良い人そうな印象を受けました。日本語も上手でした。今日は、時差の関係で 1 時間長い一日でしたが、早く感じました。夜、お母さんと離れてとても寂しくなり、日本に帰りたいと思いましたが、せっかく来たんだから頑張って最後まで楽しもうと思いました。

今日から、ナランさんのお家にホームステイです。ナランさんのお家はマンションでとても広く、二重扉の家の中は赤と白で統一されたオシャレな家でした。ナランさん家族と一緒に 70km くらい離れた草原へ移動です。モンゴルの道に牛やヤギが普通にいるのは、日本ではありえない光景なので、カルチャーショックを受けました。そして、モンゴルと言えばやっぱりチンギスハーンです。博物館やあちらこちらチンギスハーンだらけでした。

３日目は、ウランバートルに戻る途中でラクダ乗りに挑戦です。ラクダは、背が高くて虫がいっぱいいて、臭かったし怖かったけど良い体験ができました。次

に、遊園地に行きました。360 度回転する飛行機や四回転するジェットコースターに乗りました。私は、日本でも怖くてジェットコースターには乗ったことがなかったけど、乗ってみたら楽しかったです。映画館やゲームセンターにも、連れて行ってもらいました。明日からは、ゲル泊です。水道水も飲める日本と、顔を洗うのもペットボトルの水が必要なモンゴルでのゲルの生活は、どんな感じなのか楽しみです。

ゲルの見た目は、いい感じ。でも、フェルトが濡れてゲルの中は臭かったです。モンゴルには珍しく雨が降って、虹が見られて幸せな気分になりました。大自然の中では、ヘルメットをかぶって馬に乗りました。ラクダに乗ってからの乗馬は、余裕でした。ゲルの中ではストーブをたいていたのですが、火の番を忘れていたので、朝方はとても寒かったです。疲れと寒暖差で体調を崩す人も出てきました。

今日は、フスタイ国立公園で自然の『タヒ』を見に行きます。モンゴルの道はガタガタ道が続き、タンコブができました。見られないかもしれないと言われていた野生馬タヒも、近くであっさり見られてタヒの群れにも遭遇しました。草原で見る星空は、めっちゃくちゃ綺麗でした。北斗七星や流れ星もみました。『みんなが健康にいられますように』とお願いしました。

今日はゲルとさようならをし、ナラン学校に行きます。ナラン学校の看板が黄色で派手目でした。ナラン学校は、1～12 年生まであって全校生徒は 200 人くらいです。静岡県の島田市と姉妹同盟を結んでいるそうです。自己紹介では、とても緊張しました。折り紙や習字・歌を一緒にやりました。ナラン学校の生徒さんは、日本語がとても上手でした。

夜は、歌舞伎団を見ました。想像していたのとは違って、キレキレのダンスでとても格好良かったです。

ウランバートルでの最終日は、日本大使館です。普段、行く所ではない張り詰めた空気で緊張しました。大使の話を聞いていると、モンゴルの事がよく分かりました。これからも、日本との良い関係を続けて行きたいです。

最後に、お土産を買いました。みんなの事を思いながら、買い物するのはとても楽しかったです。

『さよならパーティー』。お世話になったナランさん家族との思い出は、私の大切な宝物になりました。ナラン学校の校長先生（ママ）に、ギュッと抱きしめてもらいました。

長いと思っていたモンゴルの旅も終わりです。今日は、日本に帰ります。荷物検査や出国検査はドキドキしました。何もかもが初めてだらけの旅でした。この旅が無事に乗り越えられたのは、いい仲間に出会えたからです。また、お世話になった方々に感謝します。

---

「日本ではできない体験」

但東中学校３年　／　近　本　宗　真

モンゴルに行くことが決まったその瞬間、僕にはモンゴルにはどんなものがあるのだろうという楽しみよりも不安感がわいてきました。「一緒に行く人と仲良くできるだろか。言語がわからないところで８日間も生活できるのか…」いろんなことを思いました。でも、僕にはそれと同時に、いつも手から離せないネットの世界から離れて視野を広げ、また違った日本ではできない体験をして、なにかを学んできたいという願望が生まれました。

出発当日、様々な感情を抱えてバスに乗り込みました。でも、思っていた不安は、すぐに消えました。みんなが気軽に話しかけてくれたので、これなら心配しなくとも普通に仲良くできると思いました。

モンゴルに着いてからの歓迎レセプション。そこでは、これからお世話になる方々と食事ができました。みなさん、僕たちを明るく迎えてくださり、会話をする時にも、日本語が話せる方がいてホッとしました。そのおかげで、僕には不要な緊張感がなくなって、とても気が楽になりました。１日目にして不安がほとんど消えて、これからもっとたくさん交流できるという楽しみが生まれました。

ホームステイでは、ラグワーさんのお宅に泊まらせていただきました。一緒に馬に乗ったり、遊園地にいったり、映画を見たりして本当の家族のように親密な関係ができました。優しいお父さん、おもしろいお母さん、かっこいいお兄ちゃん、かわいい妹。モンゴルに第二の家族ができました。

ゲルに泊まった時、いつも家では当たり前のことがなかなかできないということに、僕はすこし厳しさを感じました。水道を捻れば、きれいな水が出てくる。車で出かければ、スーパーで食材を買える。そんな当たり前のことが、ここでは当たり前ではない。日本では、信じられないことです。僕は、いつも当たり前にできる環境が日本にあることに感謝しなければいけないと思いました。

民族歴史博物館やフスタイ国立公園に行くと、チンギスハンをとても尊く思い、モンゴル特有の大自然を守っていこうという姿勢が見て取れました。モンゴルの人々は、自分の国の文化をとても大切にし、愛国心がとても強いと思いました。僕は、日本とは違う自国への想いにとても感心しました。

モンゴルとの交流をもっといいものにするためには、「人と人とのつながりを大切にする」ことが大切だと思いました。これは、日本での当たり前の日常でもいえることだと思います。「人と人とのつながりを大切にし、当たり前のことに感謝する。」これこそ、僕がモンゴルでの体験を通して学んだことです。

---

## 「またいつか来たい国・モンゴル」

出石中学校１年　／　廣　瀬　北　斗

初めての海外、モンゴル行きが抽選で当たってとてもワクワクしました。そして、パスポートを手にして、本当に行けるんだと思いました。

出発日が近づくにつれて、モンゴルについての話を聞いているうちに、食べ物や言葉について不安になっていました。でも、それらはホストファミリーの方々のおかげで、全部いっぺんに解決できました。ホームステイ先のご家族は、すごく日本語が上手なお父さんとお兄さん、すごく優しいお母さんがいました。一番心配だった食事、モンゴル料理は薄味でした。僕は美味しく感じて、毎回ガッツリと食べていました。ちょっと不思議な食感もあったけど大丈夫でした。

ホームステイでは、ラクダに乗ったり、乗馬をしたり、遊園地に行ったり、サイクリングをしたり、映画を観に行ったり、本当に盛りだくさんのメニューで、色々な体験をさせてもらいました。乗馬では、子供がインストラクターをしていて、すごく印象的でした。でもよく見たら、広場にある露店で子供が大勢働いていました。自転車も、結構古くてブレーキも効きにくかったし、ウランバートルは都会でしたが、一部の道路はガタガタだったり、他にも日本ではありえないと思える事がいっぱいでした。国が違うとルールも違ってくるということを実感しました。

ゲル泊では、大草原に当たり前にいる羊や山羊に会いました。そして夜、降ってきそうな星空を見ました。次々に流れ星があって、すごく綺麗でした。８月のモンゴルは梅雨で、ウランバートルでも時間によっては肌寒く、長袖の時もありましたが、ゲルの夜はストーブなしではいられませんでした。寒くて薪を絶やさず燃やしていました。

野生馬のタヒを見に高原に行った時、見られるかどうかわからないと言われていたのに、目の前に数頭現れて群れになっていたので、ビックリしました。本当に、感動しました。他にも、チンギス・ハン像が目立つ国会議事堂の見学、ナラン学校での交流会、大使館訪問等、様々な経験をする事ができました。

ホストファミリーのお母さんは最後に、僕を「息子にしたい」とまで言ってくれました。「息子にはなれないけど、機会があったらまたモンゴルへ来たいです」と答えました。

中学１年生でこんなに貴重な体験が出来たことは、一生の宝物です。お世話になったみな様、本当にありがとうございました。

---

「初めての海外　モンゴル」

港中学校１年　／　丸 谷　　京

生まれてから一度も日本を出たことの無かった私は、13 歳で初めて海外にいきました。モンゴルの事を何も知らなかったので、初めは不安でしたが、モンゴルに旅立つ日が近づくにつれて、不安がだんだんと楽しみに変わっていきました。

モンゴルに着くと、ホームステイ先の方々や以前日本に来たことのある方々が、温かく出迎えてくれました。私はモンゴル語が全然話せなかったので、コミュニケーションをとれるか心配でしたが、モンゴルの人々が日本語で話してくれたの

でとても助かりました。
モンゴルでは、郷土料理を食べました。モンゴル語で「ボーズ」というショウロンポウのような蒸し物や、「ホーショール」という具の入ったナンのような揚げ物を食べました。ゲルでご飯を食べたときは、「ゴリルタイ・ショル」という肉うどんのような料理や「スーテーツァイ」というミルクのような飲み物をいただきました。モンゴルの人たちは、スーテーツァイをお茶として飲むそうですが、私は一口しか飲めませんでした。私の一番のオススメ料理は、「ホーショール」です。
首都ウランバートルを出て観光用ゲルのある草原に行くとき、道路を見て驚きました。首都は日本と同じアスファルトの道路でしたが、首都を出ると、ぬかるんだ路面を大型トラックが走ったようなでこぼこ道でした。長時間上下に揺られたり、バスが傾いたりしていたので、少し恐怖心がありました。
４日目と５日目は、ゲルに泊まりました。ずっと前からゲルに泊まるのが憧れだったので、とても興奮しました。ゲルとは草原に暮らす遊牧民の家で、木とフェルトでできた分解・組み立てのしやすい移動式の住居の事です。私たちが泊まった観光用ゲルには、ベッドと鉄製のストーブがありました。ストーブはとても暖かく、ベッドの寝心地はよかったです。
５日目に、希少動物の野生馬「タヒ」を見に行きました。タヒは昔、原産地であるモンゴルに多数生息していました。でも、野生下では一度絶滅してしまい、飼育個体の子孫を野生に戻す試みが各地で行われました。その結果、野生のタヒが 100 頭以上、自然回帰したと聞きました。タヒは希少動物として保護されているのを知って、「保護されている」ことと「飼育してから野生復帰させる」という部分が豊岡のコウノトリと同じだと思いました。希少動物という事もあり、野生のタヒを実際に見ることができるか心配でしたが、たくさん見ることができて嬉しかったです。これからも、野生のタヒが増えていってほしいと思いました。
初めての海外で不安な事も多々ありましたが、とても楽しかったです。モンゴルで学んだ事をこれからに活かし、たくさんの人に話を聞いてもらいたいです。

---

「モンゴルへ訪問して」

但東中学校教諭　／　當　銘　梨　恵

今回、初めて生徒を引率して海外へ訪問させていただいて、様々なことを感じることができました。
初めは、モンゴルに８日間生徒を連れて行くという話をいただいた時、知らない土地であまりなじみのない他校の生徒を連れて行くことに、正直言うとかなり不安を感じていました。しかし、実際に行ってみると、生徒の明るさ、元気よさに励まされ、勇気づけられ、さらに８日間という短い間に、生徒の成長をたくさんみることができました。それは、特に現地の中学生との交流の時です。かなり

短時間で打ち合わせをして挑んだにも関わらず、私が予想していた以上の動きをしていて驚きました。そんな姿をみて、モンゴルに行ってよかったなあと思いました。本当に嬉しかったです。

　そして、生徒の成長やすばらしさをみてきたからこそ残念に思ったことがあります。それは、コミュニケーションについてです。私自身も感じたことなのですが、学校で学んでいる英語とは違って、言葉が全くわかりませんでした。モンゴルの方は日本語を話して下さっているのに、こっちは何も話すことができませんでした。生徒達と話していて一人ひとりが本当に面白いなあ、いいものを持っているなあと感じていたので、それをモンゴルの方にも、もっと伝えたかったし、生徒たちにも、モンゴルの方ともっとたくさん話ができたらなあと思いました。私自身が少しでもモンゴル語を学んで、サポートできていたらなあと残念に思います。

---

「モンゴル国に旅して」

日本･モンゴル民族博物館　／　道　下　　一

　私、もとは旧但東町の職員でしたので、昭和から平成に年号が変わる頃、町の人たちが遠くモンゴル国の人たちと交流を始めていた頃のことを、今思い返すと、なんだか薄っすら記憶しております。その頃は、確か、大阪外国語大学がこの縁を取り持つことで交流関係が始まったのではなかったかと。当時、同大学の先生が、もしも但東町という地域に着目していなかったら、現在の交流関係はもちろんのこと、日本・モンゴル民族博物館もこの世に存在し得なかったのかも知れません。

　最初、モンゴル国の遊牧地域から選ばれた３人の青年が日本まで遥々やってきて、町内にある繊維強化プラスチック加工会社の研修生として１年間滞在して以来、モンゴル国との人の行き来が盛んになりました。若く純朴な３人の遊牧青年は、わずか１年の間にプラスチック加工技術を習得すると同時に、日本語もすっかり話せるまでになっていました。ただし、日本語とはいえども但東町の方言がかなり混ざっていたような気がしましたが…。

　でも、それほど短い期間にも親しみ深い関係性を構築できたのは、相手方が他ならぬモンゴル国の人々だったからこそでしょう。今回、同国に旅して、出会った人々の多くは日本に、そして豊岡に対して深い理解と親しみを持ってくれている人たちばかりでした。しかしながら、ホームステイ時にデムベレル先生に連れて行っていただいた、ウランバートルから南に約 70 キロも離れた大草原で暮らす若い遊牧民一家と、そのご近所の方々は、普段から日本など特に意識することなく暮らしている人たちだろうと思いますが、すぐに私たちと打ち解けて親しく接していただき、また、みなさんのお顔の表情など見ていますと、我々のまわりに日常暮らしている人たちと何ら遜色ない感じの方々ばかりでした。よく言われ

る蒙古斑論議ではありませんが、やっぱり日本人のルーツはモンゴル国なのかと思ってしまいます。しかし、それでも周囲をロシアや中国といった国々に囲まれた大陸のど真ん中に位置するモンゴル国と、穏やかな海に囲まれた日本国とでは国民性に厳然たる相違点があることもまた事実でした。
　たった８日間ではありましたが、現在のモンゴル国の一部分をちらっと垣間見させていただき、ちょっとだけモンゴル国をかじって、やっと馴染めそうかなと感じてきた矢先に帰ってきてしまい、モンゴルの感触がすっかりリセットされて、今はあらためて日本という国はかくも整然と行き届いた場所なんだなと再認識しているところです。またいつの日か、あの大草原の国を訪れることができたらいいなと漠然と思っています。今回の使節団訪問を支えていただいたすべての皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。

# Ⅵ．管理運営

１．組織・職員（平成 27 年３月 31 日現在）

（1）組織

豊岡市地域コミュニティ振興部
- コミュニティ政策課
- 生涯学習課
- 文化振興課
  - 豊岡市立日本･モンゴル民族博物館
  - 豊岡市立美術館「伊藤清永記念館」
  - 豊岡市立豊岡市民会館
  - 豊岡市立出石文化会館（ひぼこホール）
- スポーツ振興課

顧問　（福田芳郎）

館長（植田　政由）
- 係　長　（道下　一）
- 嘱託職員　（渡辺　律子）
- 嘱託職員　（柴田　明子）
- 嘱託職員　（橋本真紀恵）
- 嘱託職員　（朝倉　由美）

博物館協力会

（2）職員

館　長　植田　政由（平成 23 年４月～）
（嘱託職員）
係　長　道下　一　（平成 26 年４月～）
嘱託職員　渡辺　律子（平成　８年 11 月～）

嘱託職員　　柴田　明子（平成 13 年４月～）
嘱託職員　　橋本真紀恵（平成 17 年４月～）
嘱託職員　　朝倉　由美（平成 25 年４月～）

(3) 事務分掌

植田　政由　　管理運営に関すること。講師の派遣に関すること。モンゴル国との国際交流、モンゴル関係団体との連絡調整、文化財の調査研究、文化財保護に関すること。

道下　　一　　館の庶務、歳入歳出及び経理、企画展示、出前授業及び講師派遣に関すること、各種教室・講習会の開催

渡辺　律子　　歳入歳出及び経理、受付及び案内、常設展示・企画展示に関すること、館内外の管理に関すること

柴田　明子　　ミュージアムショップに関すること、受付及び案内、各種教室・講習会の開催、館内外の管理に関すること

橋本真紀恵　　文書の管理、受付及び案内、博物館協力会に関すること、館内外の管理に関すること

朝倉　由美　　文書の管理、受付及び案内、ホームページの管理、館内外の管理に関すること

２．予算の概要（決算額）　　　　　　　　　単位:千円（百円以下四捨五入）

〔人件費〕　22,190
- ① 報　酬 9,999（嘱託職５名）
- ② 給　与 4,144（一般職１名）
- ③ 職員手当等 4,853（扶養手当 78、通勤手当 664、時間外勤務手当 518、期末手当 3,050 、勤勉手当 543、住居手当 0、こども手当 0）
- ④ 共済費 3,194

〔管理費〕　8,717
- ① 賃　金　469
- ② 旅　費　3（普通旅費）
- ③ 需用費 6,230（消耗品費 187、燃料費 100 、印刷製本費 45、 光熱水費 5,004 修繕料 867、飼料費 27）
- ④ 役務費　300（通信運搬費 231、保険料等 69）
- ⑤ 委託料 1,510（電気保安点検 178、自動ドア点検 57、消防施設点検 23、空調設備点検 216、芝生管理 130、清掃管理 205、警備 259、電気使用料監視 52、資料燻蒸 150、除雪 240）
- ⑥ 使用料　176
- ⑦ 負担金　10
- ⑧ 公課費　19

〔事業費〕　　2,541

① 報償費　　420

② 旅　費　　101

③ 需用費 1,304（消耗品費 1,296、食料費 8）

④ 役務費　　247（通信運搬費 87、広告料 160）

⑤ 委託料　　300

⑥ 使用料　　169（会場借上料 15、自動車借上料 45、通行料 9、データ使用料 100）

※別途、モンゴル国友好訪問使節団派遣事業は、国際交流推進費に 3,260 千円支出済み。

３．利用状況

当館は平成８年 11 月３日に開館し、利用者は平成 27 年３月末累計で、413,626 名となった。平成 26 年度は開館日数が 308 日で、入館者が 10,017 名であった。

平成 26 年度利用者は前年度と比べ 6.0％の減少となった。原因としては、チューリップまつりの開催期間の関係などが考えられるが、今後は、より情報発信の充実に努めなければならない。

【平成 22 年度(開館日：308 日)】

| 区　分 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 協力会地区 | 99 | 32 | 25 | 18 | 25 | 53 | 12 | 30 | 12 | 12 | 15 | 31 | 364 |
| 一　般 | 1,077 | 459 | 467 | 370 | 383 | 190 | 255 | 497 | 258 | 103 | 252 | 340 | 4,651 |
| 高、大 | 17 | 20 | 2 | 4 | 26 | 6 | 15 | 22 | 2 | 1 | 7 | 7 | 129 |
| 小、中 | 97 | 49 | 3 | 30 | 49 | 6 | 10 | 10 | 9 | 13 | 40 | 39 | 355 |
| その他 | 2,000 | 555 | 377 | 385 | 481 | 333 | 321 | 359 | 206 | 254 | 357 | 496 | 6,124 |
| 計 | 3,290 | 1,115 | 874 | 807 | 964 | 588 | 613 | 918 | 487 | 383 | 671 | 913 | 11,623 |
| 1 日平均 | 118 | 41 | 35 | 30 | 36 | 24 | 23 | 35 | 21 | 17 | 28 | 35 | 38 |

【平成 23 年度(開館日：309 日)】

| 区　分 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 協力会地区 | 40 | 40 | 23 | 45 | 49 | 40 | 30 | 35 | 14 | 16 | 14 | 30 | 376 |
| 一　般 | 796 | 463 | 190 | 188 | 335 | 206 | 393 | 376 | 160 | 165 | 193 | 397 | 3,862 |
| 高、大 | 12 | 7 | 2 | 2 | 19 | 9 | 14 | 1 | 2 | 3 | 2 | 10 | 83 |
| 小、中 | 60 | 29 | 7 | 14 | 59 | 8 | 7 | 7 | 2 | 23 | 19 | 44 | 279 |
| その他 | 892 | 433 | 242 | 531 | 555 | 286 | 592 | 517 | 230 | 517 | 523 | 635 | 5,953 |
| 計 | 1,800 | 972 | 464 | 780 | 1,017 | 549 | 1,036 | 936 | 408 | 724 | 751 | 1,116 | 10,553 |
| 1 日平均 | 67 | 36 | 19 | 29 | 39 | 21 | 38 | 37 | 17 | 30 | 31 | 41 | 34 |

【平成 24 年度(開館日:309 日)】

| 区　分 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 協力会地¥区 | 26 | 41 | 68 | 24 | 28 | 54 | 33 | 28 | 19 | 18 | 26 | 47 | 412 |
| 一　般 | 566 | 702 | 327 | 225 | 305 | 327 | 376 | 492 | 196 | 153 | 229 | 502 | 4,400 |
| 高、大 | 7 | 15 | 3 | 6 | 10 | 1 | 15 | 2 | 0 | 2 | 8 | 4 | 73 |
| 小、中 | 47 | 51 | 8 | 19 | 31 | 5 | 8 | 13 | 4 | 5 | 24 | 91 | 306 |
| そのた | 906 | 722 | 554 | 500 | 543 | 420 | 280 | 540 | 222 | 318 | 803 | 756 | 6,564 |
| 計 | 1,552 | 1,531 | 960 | 774 | 917 | 807 | 712 | 1,075 | 441 | 496 | 1,090 | 1,400 | 11,755 |
| 1 日平均 | 55 | 57 | 37 | 29 | 35 | 31 | 27 | 41 | 19 | 21 | 45 | 52 | 38 |

【平成 25 年度(開館日:305　日)】

| 区　分 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 協力会地区 | 41 | 36 | 34 | 21 | 35 | 73 | 28 | 32 | 41 | 10 | 26 | 60 | 437 |
| 一　般 | 634 | 421 | 289 | 197 | 353 | 316 | 228 | 510 | 139 | 140 | 199 | 362 | 3,788 |
| 高、大 | 4 | 14 | 12 | 1 | 39 | 5 | 1 | 7 | 1 | 2 | 3 | 7 | 96 |
| 小、中 | 57 | 24 | 6 | 17 | 58 | 13 | 5 | 4 | 6 | 14 | 20 | 47 | 271 |
| その他 | 728 | 508 | 488 | 406 | 622 | 347 | 512 | 432 | 221 | 468 | 748 | 585 | 6,065 |
| 計 | 1,464 | 1,003 | 829 | 642 | 1,107 | 754 | 774 | 985 | 408 | 634 | 996 | 1,061 | 10,657 |
| 1 日平均 | 54 | 39 | 32 | 25 | 40 | 29 | 30 | 38 | 20 | 28 | 42 | 39 | 35 |

【平成 26 年度(開館日:308 日)】

| 区　分 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 協力会地区 | 49 | 50 | 20 | 12 | 27 | 39 | 26 | 16 | 8 | 10 | 18 | 61 | 336 |
| 一　般 | 620 | 288 | 313 | 246 | 394 | 216 | 332 | 534 | 124 | 89 | 177 | 332 | 3,665 |
| 高、大 | 13 | 11 | 1 | 2 | 15 | 3 | 15 | 7 | 1 | 4 | 19 | 8 | 99 |
| 小、中 | 58 | 24 | 7 | 10 | 51 | 13 | 4 | 18 | 4 | 5 | 25 | 44 | 263 |
| その他 | 769 | 323 | 268 | 337 | 617 | 364 | 354 | 578 | 256 | 464 | 800 | 524 | 5,654 |
| 計 | 1,509 | 696 | 609 | 607 | 1,104 | 635 | 731 | 1,153 | 393 | 572 | 1,039 | 969 | 10,017 |
| 1 日平均 | 56 | 26 | 23 | 23 | 41 | 24 | 28 | 44 | 17 | 25 | 43 | 36 | 33 |

## ４．施設管理

### (1) 芝生管理

敷地内に広がる芝生管理を豊岡市シルバー人材センターなどに年間委託している。本年度は、ボランティアで行っていただいた活動も含め３回の除草作業を実施した。

また、博物館協力会や近隣地区の皆さんにも、芝生や植木の管理などの館外の美化に協力をいただいた。

（2）補修工事

秋の台風豪雨でＢ棟屋根の庇部分から「いのり」のコーナーに雨漏りしたため、防水補修工事を実施した。（平成27年３月）

５．博物館協力会

博物館協力会は、当館が位置する資母地区の住民から「いつまでも美しい建物にしよう」という声が上がり、加藤廣巳氏と塩川剛三氏の呼びかけで、平成９年２月10日に発足した。会長は、博物館が位置している如布区長がこれにあたり、周辺地域の区長や各団体の長が理事として連なる。また、資母地区選出市議会議員、博物館ＯＢが顧問となる役員構成になっている。

平成26年の活動内容は以下のとおりである。

（1）役員

会　長　　田中勝利

理　事　　13名　　　　顧　　問　　10名

（任期：平成26年１月１日～平成26年12月31日）

（2）活動内容

①役員会の開催

平成26年５月17日に博物館主催による役員会を開催し、博物館の現状説明と運営に対しての協力依頼を行った。

②芝生広場除草などのボランティア作業

敷地内芝生広場の除草や、山羊のえさの提供などに協力いただいた。

③各種事業への協力

平成27年３月に開催した、まるごとモンゴル雛まつり（馬頭琴、ホーミー演奏ほか）の開催ＰＲに協力いただいた。

６．各種委員会委員などの受諾

平成26年度現在、博物館職員が委嘱を受けている各種委員会、協会役員などは次のとおり。

植 田 政 由

但馬地域博物館連絡会委員（平成25年４月～平成27年３月31日）

７．博物館ネットワーク

（1）兵庫県博物館協会

兵庫県内の博物館・美術館・資料館で構成され、平成27年３月末で142 館が加盟し、県立歴史博物館が事務局館を務めている。

- 平成26年５月　兵庫県博物館協会総会
- 兵庫県博物館ガイドの作成、配布
- ホームページでの夏休み子ども向けイベントの紹介

・展覧会案内情報更新
・はくぶつかんガイドの作成・配布
・ホームページの更新

(2) 但馬地域博物館連絡会

兵庫県北部に位置している但馬管内の博物館施設が、相互協力して博物館活動の振興を図るため、平成９年４月 25 日に設立され、平成 27 年３月末現在では 21 館が加盟している。当館は平成９年４月に加盟し、その後、幹事館となり、平成 18 年６月から平成 21 年８月まで事務局担当、その後平成 22 年度まで監事を務めていたが、平成 25 年度から 26 年度まで役員に就任している。

・平成 26 年５月 15 日　役員会
・平成 26 年６月 12 日　総会
・平成 26 年９月 19 日　研修会（須磨海浜水族館）
・平成 26 年 10 月９日　但馬まるごと感動市でのＰＲ

８．博物館日誌抄

平成 26 年度の主な出来事を日報から抜粋して記載する。

4 月 1 日　館内会議
4 月 5 日　モンゴルで学んだお話と音楽のつどい
4 月 13 日　館内会議
4 月 18 日　チューリップ祭開園(4/18～29)
4 月 19 日　モンゴル民族音楽公演「草原のそよ風」コンサート
4 月 20 日　同上（２日目）
4 月 28 日　館内会議
5 月 23 日　館内会議
6 月 3 日　館内会議
5 月 4～5 日　モンゴルの春祭り（ハワリンバヤル）参加（館長）
5 月 15 日　但馬地域博物館連絡会役員会（館長）
5 月 17 日　博物館協力会役員会（館長、道下、橋本）
5 月 23 日　大相撲横綱の来館要請に関する京丹後市役所協議（館長）
5 月 30 日　オープンガーデン開園（6/2 まで）
5 月 31 日　大相撲横綱の来館要請に関する尾車親方協議（館長、道下）
6 月 5 日　モンゴル国友好訪問使節団派遣に関する部長協議（館長、道下）
6 月 10 日　豊岡市博物館･美術館等館長会議（館長、道下）
6 月 12 日　但馬地域博物館連絡会総会（館長）
6 月 13 日　モンゴル国友好訪問使節団派遣に関する副市長協議（館長、道下）
6 月 14 日　東京都板橋区モンゴル協会より視察来館
6 月 23 日　第 65 回企画展の展示品借用（道下、渡辺）

7 月 1 日　館内会議
7 月 2 日　企画展展示替作業（全職員）
7 月 3 日　モンゴル国友好訪問使節団派遣第１回説明会（館長、道下）
7 月 5 日　第 65 回企画展開始（10/7 まで）
7 月 10 日　モンゴル交流イベント開催協議のため大阪大学箕面キャンパスへ（館長）
7 月 14 日　館内会議
7 月 14 日　国際交流協会但東支部役員会（館長、道下）
7 月 15 日　豊岡市博物館･美術館等運営委員会（館長）
7 月 17 日　モンゴル国友好訪問使節団派遣第２回説明会（館長、道下）
7 月 24 日　モンゴル国友好訪問使節団派遣第３回説明会（館長、道下）
7 月 28 日　教師のトライやるウィーク（資母小より１名、7/28～31）
7 月 28 日　やきもの教室開催（橋本）
7 月 31 日　モザイクでお絵書き教室（柴田）
8 月 1 日　モンゴル国友好訪問使節団出発
8 月 3 日　木工教室開催
8 月 5 日　お絵かき風鈴作り教室開催
8 月 8 日　モンゴル国友好訪問使節団帰国　補正予算市長ヒヤリング（館長）
8 月 15 日　神戸新聞社企画展取材来館
8 月 18 日　博物館収蔵品台帳整備第１回ＷＧ会議（館長、道下、渡辺、朝倉）
8 月 19 日　おもちゃを作って遊ぼう教室開催
8 月 21～22 日　モンゴル交流会（商工会青年部主催）
8 月 28 日　モンゴル国友好訪問使節団帰国報告会（館長、道下）
8 月 30 日　ふるさと豊岡再発見の旅一行来館（柴田）
9 月 1 日　博物館収蔵品台帳整備第２回ＷＧ会議（館長、道下、渡辺、朝倉）
9 月 4 日　博物館収蔵品台帳整備第３回ＷＧ会議（館長、道下、渡辺、朝倉）
9 月 8 日　博物館収蔵品台帳整備第４回ＷＧ会議（館長、道下、渡辺、朝倉）
9 月 16 日　館内会議
9 月 21 日　但東町童謡ウオーク＆コンサート
10 月 6 日　館内会議
10 月 8 日　企画展展示替作業（全職員）
10 月 9 日　第 66 回企画展開始（1/20 まで）
10 月 9 日　大相撲横綱の来館に関する要請（館長、道下）
10 月 14 日　大相撲北陣親方（元大関麒麟児）が来館
10 月 19 日　大相撲横綱「鶴竜関」来館
10 月 30 日　館内会議
10 月 23 日　出石特別支援学校中等部へ市政出前講座（橋本、柴田）
10 月 31 日　学校, 但東支所連絡会議（館長）
11 月 2 日　館内会議

11 月 2 日　モンゴル相撲大会
11 月 2 日　資母の宝まつりへ出展ＰＲ
11 月 4 日　安国寺どうだんつつじ開始（11/24 まで）
11 月 7 日　博物館収蔵品台帳整備第５回ＷＧ会議（館長、道下、渡辺、朝倉）
11 月 8～9 日 「関西文化の日」協賛で入館料無料（160 名入館）
11 月 27 日　東京外大院生の水谷東洋氏が市民講座の件等で来館（道下ほか）
12 月 2 日　館内会議
12 月 5 日　博物館収蔵品台帳整備第６回ＷＧ会議（館長、道下、渡辺、朝倉）
12 月 16 日　館内会議
1 月 8 日　博物館消防施設点検
1 月 12 日　資母「どんど焼き」「雪」祭り
1 月 19 日　市大交流課・ＪＴＢと新年度事業の協議（館長、道下）
1 月 24 日　大阪大学言語文化研究科　今岡良子准教授来館
2 月 7 日　2015 羊パレット視察（道下、橋本、朝倉）
2 月 10 日　館長会議（館長、道下）
2 月 11 日　大阪大学言語文化研究科　今岡良子准教授来館
2 月 27 日　遊牧の民の調べコンサート（城崎町）
2 月 27 日　豊岡市博物館.美術館等運営委員会（館長）
3 月 1 日　2015 まるごとモンゴル雛まつり（博物館内）

## ９．お客様の声より抜粋

以下は平成 26 年度の来館者の声を抜粋したもので、博物館職員として真摯に受け止め今後の運営に活かしたいと考えている。

◎４月 18 日　兵庫県神崎郡（60 歳代　女性）

前に来たときよりも展示品が沢山あり、ゆっくりと見られました。大変良かったです。また来たいと思います。

◎４月 19 日　京都府宮津市（60 歳代　男性）

馬頭琴のコンサートは、アットホーム的でとても良かった。

◎４月 22 日　京都府京丹後市（20 歳代　女性）

民族衣装の試着体験が無料で出来たり、住居が見れたり、企画展の写真の独特な感じが大好きです。

◎４月 22 日　京都府京丹後市（30 歳代　女性）

民族衣装の試着が良かった。ゲルの中のインテリアの感じや馬具が良かった。

◎４月 24 日　兵庫県明石市（10 歳代　男性）

職員の対応も良くとても良かった。

◎４月 27 日　兵庫県豊岡市（10 歳未満　男性）

モンゴルの暮らしや生きものが分かり勉強になりました。

◎４月 28 日　京都府京丹後市（10 歳代　女子）

プレートの説明がとてもわかりやすく、勉強になりました。

◎４月 29 日　京都府福知山市（10 歳代　女性）

モンゴルのゲルという家と昔の家が楽しかったです。ゲルに住みたいと思いました。とても楽しかったです。また、来たいです。

◎４月 29 日　兵庫県姫路市（10 歳代　女性）

モンゴルの服が良かったです。家がおもしろかったです。リアルでおもしろかったです。

◎４月 29 日　京都府福知山市（10 歳代　女子）

モンゴルのゲルという家がとてもおもしろかった。

◎４月 29 日　京都府福知山市（10 歳代　女子）

本当にモンゴルに行けたような気分になりました。衣装も着られたし、モンゴルの暮らしも分かって学習できました。ゲルにも結構長い時間いて、「住みたいな」と思いました。また、来たいです。

◎５月３日　兵庫県豊岡市（10 歳代　女性）

いろいろな物が展示されていて、モンゴルのことがとても良く分かった。日本では、できない体験ですごく楽しかったし、勉強にもなった。 また来たいです。

◎５月３日　兵庫県豊岡市（10 歳代　女性）

モンゴルのいろいろなことが分かった。モンゴルの家は、すごかった。すごく楽しかった。また、いっぱい来たいと思った。

◎５月４日　養父市（10 歳未満　女性）

遠いモンゴルのことが、少し知れたのでうれしいです。

◎５月５日 京都市　（40 歳代　女性）

おもしろかったです。展示内容もわりと丁寧に読みました。衣装体験も沢山写真を撮りました。

◎５月 11 日　兵庫県豊岡市　（30 代　女性）

なぜ但東町に、モンゴル博物館が建てられたのか知りたいです。モンゴルと但東町のつながりは何ですか？モンゴルは、今も朝と夜にお茶を飲む習慣ですか？個人的に、恐竜がめちゃめちゃ好きなので、もっともっと増えて欲しいです。

◎５月 15 日　京都府亀岡市　（60 歳代　男性）

こういう場所に、こんな施設があることが不思議な思いがします。１週間前に友人から聞くまでは、全く知りませんでした。

◎６月 20 日　兵庫県相生市　（10 歳代　女性）

モンゴルの事やスーホの白い馬を見て、とってもよかったです。帰ったら勉強したいと思います。

◎８月 12 日　兵庫県加古川市　（60 歳代　男性）

第 65 回企画展「駄菓子屋　縁日　なつかしの玩具」楽しく、懐かしく昭和の時代を思い出すとともに、過去と現在の移り変わりを実感しま

した。

◎10 月 26 日　千葉県柏市　（70 歳代　男性）

大変立派な博物館ですね。古代史を研究していますが、大変参考になりました。

◎11 月 3 日　愛知県名古屋市　（10 歳未満　女性）

衣装を着れるところがありました。モデルみたいに、楽しめました。また、高校生くらいに来たいです。

# 10. 日本・モンゴル民族博物館の設置及び管理に関する条例

平成17年4月1日
条例第179号

改正　平成19年12月26日条例第66号
平成26年3月28日 条例第8号
平成27年3月27日条例第14号

（設置）

第1条　市民文化を振興し、文化活動の拠点とするとともに、モンゴル文化及び郷土の生活文化の紹介、体験交流等を通して魅力ある地域づくりを図るため、豊岡市立日本・モンゴル民族博物館（以下「博物館」という。）を設置する。

（位置）

第2条　博物館の位置は、豊岡市但東町中山711番地とする。

（事業）

第3条　博物館は、第1条に規定する目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

(1)　博物館の資料の収集、保管及び利用に関すること。

(2)　博物館の資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。

(3)　博物館の施設の利用に関すること。

(4)　博物館の資料の利用に関して必要な説明、助言及び指導をすること。

(5)　博物館の資料に関する専門的及び技術的な調査研究に関すること。

(6)　他の博物館等との相互協力に関すること。

(7)　郷土の生活文化の紹介及び体験交流に関すること。

(8)　前各号に掲げるもののほか、博物館の目的を達成するために必要な事業

2　市長は、博物館の施設を、前項の事業の実施に支障のない限りにおいて、その目的以外の目的のために使用させることができる。

（職員）

第4条　博物館に、館長その他職員を置く。

（観覧料）

第5条　博物館に展示している資料を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の観覧料を納付しなければならない。

（特別観覧料）

第6条　博物館に展示し、又は保管している資料について学術研究等のために模写、模造、撮影等をしようとする者は、市長の許可を受け、1点1回につき2,000円の範囲内で規則で定める額の特別観覧料を納めなければならない。

（使用の許可）

第7条　別表第2に掲げる施設を使用しようとする者は、市長の許可を受けなければならない。

2　市長は、前項の許可に博物館の管理上必要な条件を付し、又はこれを変更することができる。

（許可の基準）

第8条　市長は、次の各号のいずれかに該当するときは、前条第1項の許可をしてはならない。

(1)　博物館の施設の使用が公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認めるとき。

(2)　博物館の施設の使用が博物館の建物、器具、備品等（以下「建物等」という。）を汚損し、損傷し、又は滅失させるおそれがあると認めるとき。

(3)　暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団その他反社会的団体又はそれらの構成員が使用すると認めるとき。

(4)　前3号に掲げるもののほか、市長がその使用を不適当であると認めるとき。

2　市長は、博物館の管理上又は公益上支障があると認めるときは、前条第1項の許可をしないことができる。

（使用権の譲渡等の禁止）

第9条　第7条第1項の規定により施設の使用の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、その権利を譲渡し、又は転貸してはならない。

（許可の取消し等）

第10条　市長は、次の各号のいずれかに該当するときは、許可を取り消し、又は施設の使用の制限をし、若しくは使用の停止を命ずることができる。

(1)　使用者がこの条例若しくはこの条例に基づく規則又はこれらに基づく指示に違反したとき。

(2)　使用者が許可された使用目的以外の目的に施設を使用したとき。

(3)　使用者が許可に付した条件に違反したとき。

(4)　使用者が詐欺その他不正の行為により許可を受けたとき。

(5)　第8条第1項各号のいずれかに該当するに至ったとき。

2　市長は、博物館の管理上又は公益上やむを得ない必要が生じたときは、使用者に対し、前項に規定する処分をすることができる。

（使用料の徴収）

第11条　市長は、第7条第1項の許可を受けてする施設の使用につき、使用者から、別表第2に定める使用

料を徴収する。
(観覧料等の減免)
第12条　市長は、公益上特に必要があると認めるときは、申請により、観覧料、特別観覧料及び使用料(以下「観覧料等」という。)を減額し、又は免除することができる。
(観覧料等の不還付)
第13条　既に納めた観覧料等は、還付しない。ただし、第10条第2項の規定により教育委員会が博物館の管理上又は公益上やむを得ない必要が生じたとして同条第1項に規定する処分をしたとき、その他市長が特別の理由があると認めるときは、申請により、その全部又は一部を還付することができる。
(入館の制限等)
第14条　市長は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、博物館への入館を拒絶し、又は博物館からの退館を命ずることができる。
(1)　公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがある者
(2)　他人に危害を及ぼし、又は他人の迷惑になるおそれがある物品若しくは動物の類を携帯する者
(3)　建物等を汚損し、損傷し、又は滅失させるおそれがある者
(4)　前3号に掲げるもののほか、博物館の管理上必要な指示に従わない者
(行為の禁止)
第15条　何人も、博物館内において、博物館の管理上支障がある行為をしてはならない。
(原状回復の義務)
第16条　使用者は、博物館の施設の使用を終了したとき、又は第7条第1項の許可を取り消されたときは、直ちに施設を原状に回復しなければならない。
2　市長は、使用者が前項の義務を履行しないときは、その原状回復に必要な措置を採るべきことを命ずることができる。
(損害の賠償等)
第17条　博物館の建物等を汚損し、損傷し、又は滅失させた者は、これを原状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、市長は、特別の事情があると認めるときは、その賠償額を減額し、又はこれを免除することができる。
(委任)
第18条　この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。
附　則
(施行期日)
1　この条例は、公布の日から施行する。
(経過措置)
2　この条例の施行の日の前日までに、合併前の日本・モンゴル民族博物館の設置及び管理運営に関する条例(平成8年但東町条例第21号)の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、この条例の相当規定によりなされたものとみなす。
(観覧料の特例)
3　第5条の規定は、平成17年4月1日から平成18年3月31日までの間においては、合併前の出石郡但東町の区域に居住する者が博物館を観覧するときは、適用しない。
附　則(平成19年12月26日条例第66号)
(施行期日)
1　この条例は、平成20年4月1日から施行する。
(経過措置)
2　この条例による改正後の日本・モンゴル民族博物館の設置及び管理に関する条例別表第2の規定は、この条例の施行の日以後に使用許可を受ける者の使用料について適用し、同日前に使用許可を受けている者の使用料については、なお従前の例による。
附　則(平成26年 3 月28日条例第 8 号)
(施行期日)
1　この条例は、平成26年4月1日から施行する。
附　則(平成27年 3 月27日条例第14号)
(施行期日)
1　この条例は、平成27年4月1日から施行する。

別表第1(第5条関係)

| 区分 | 観覧料(1人1回につき) | | 備考 |
|---|---|---|---|
| | 個人 | 20名以上の団体 | |
| 一般 | 500円 | 450円 | 「一般」とは学生、中学生又は小学生以外の者で、15歳以上のものをいい、「学生」とは大学、高等学校及びこれらに準ずる学校の学生及び生徒をいう。 |
| 学生 | 300円 | 250円 | |
| 小学生・中学生 | 200円 | 150円 | |

別表第2(第7条、第11条関係)

| 区分 | 使用料 | | |
|---|---|---|---|
| | 午前9時から午後零時まで | 午後1時から午後5時まで | 午後6時から午後10時まで |
| 企画展示室 | 1,500円 | 2,000円 | |
| 体験交流室 | 1,200円 | 1,600円 | 1,600円 |
| 天幕住居(ゲル) | 1基につき5,000円 | | |

備考
1　冷暖房を使用する場合は、この表に規定するそれぞれの額の3割に相当する額を加算する。
2　電気釜の使用料は、1回当たり1,000円とする。

## 11. 施設概要

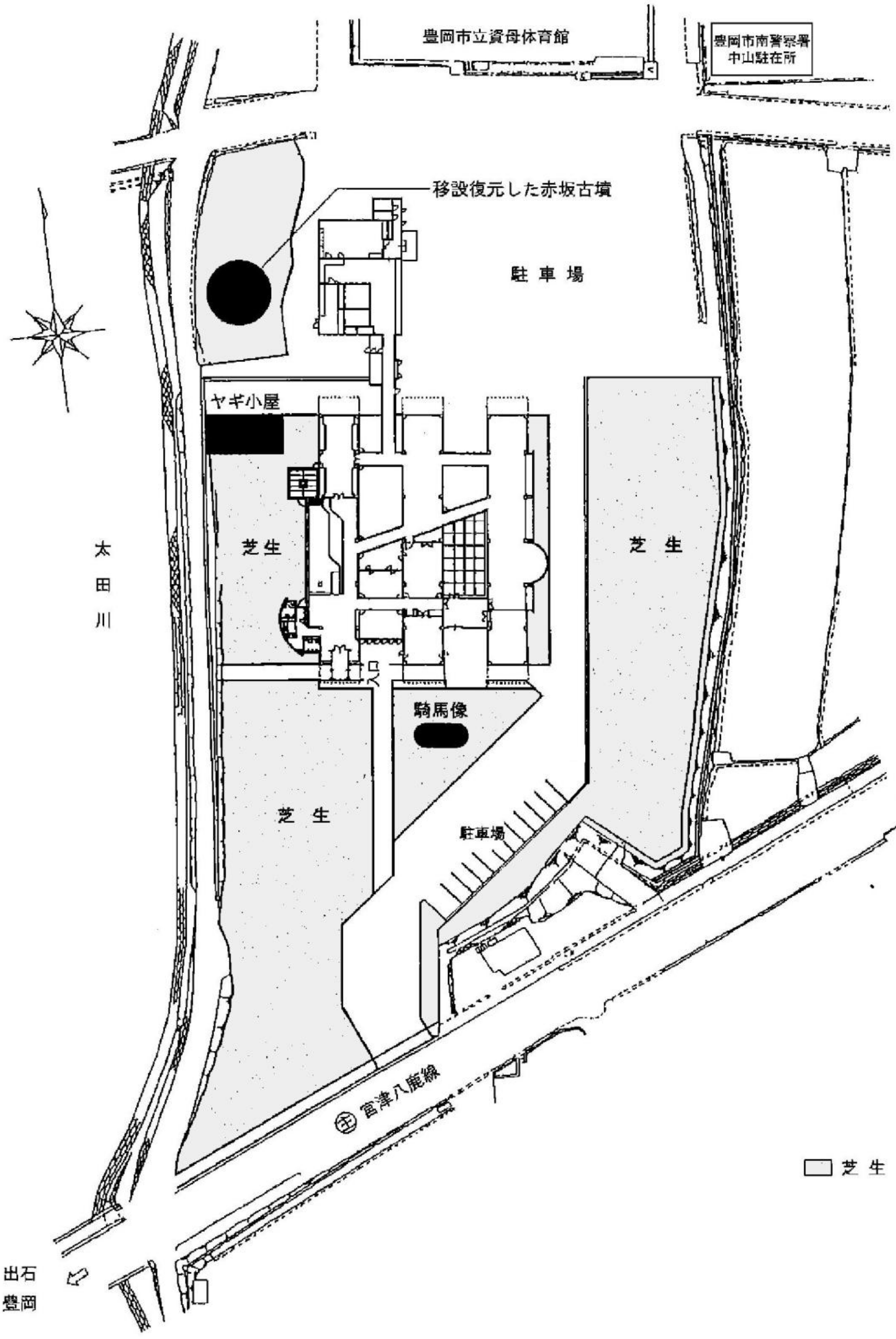
### (1) 本館建設概要

位　　置　兵庫県豊岡市但東町中山711
基本設計　建物　井上良一建築設計事務所
　　　　　展示　株式会社さんよう
実施設計　建物　井上良一建築設計事務所
　　　　　展示　株式会社さんよう
工事施工　建物　川嶋・井田・マルテン特別共同企業体
　　　　　展示　株式会社さんよう
工　　期　建物　着工　平成7年12月14日
　　　　　　　　竣工　平成8年 8月12日
　　　　　展示　着工　平成8年 5月 7日
　　　　　　　　竣工　平成8年10月30日
敷地面積　10,402.84㎡
建築面積　999.65㎡
構造概要　鉄筋コンクリート造　フッ素樹脂塗装鋼板瓦棒葺
　　　　　立体トラス鉄骨（KTトラス）
各室面積　玄関ホール・たんとうの森　211.6㎡、収蔵庫1　54.6㎡、収蔵庫2　56.5㎡、荷解室　33.3㎡、多用途室　28.0㎡、事務室　33.3㎡、準備室　48.2㎡
　　　　　展示室「アジアの歴史」 75.7㎡
　　　　　展示室「モンゴル草原の暮らしと文化」206.8㎡
　　　　　展示室「チベット仏教」37.7㎡
　　　　　企画展示室　74.4㎡
　　　　　シルクロード(回廊)1　13.3㎡、シルクロード(回廊)2　13.3㎡、シルクロード(回廊)3　12.6㎡、シルクロード(回廊)4　12.6㎡
建物規模　平屋建て　東西41.8m　南北42.5m
　　　　　地上高9.0m
仕 上 げ　〈外装〉複層吹付
　　　　　〈内装〉床　：モルタル下地タイルカーペット貼
　　　　　　　　　壁　：山本窯業化学テラックス、石膏ボード、化粧合板
　　　　　　　　　天井：杉小幅板、岩綿吸音板貼

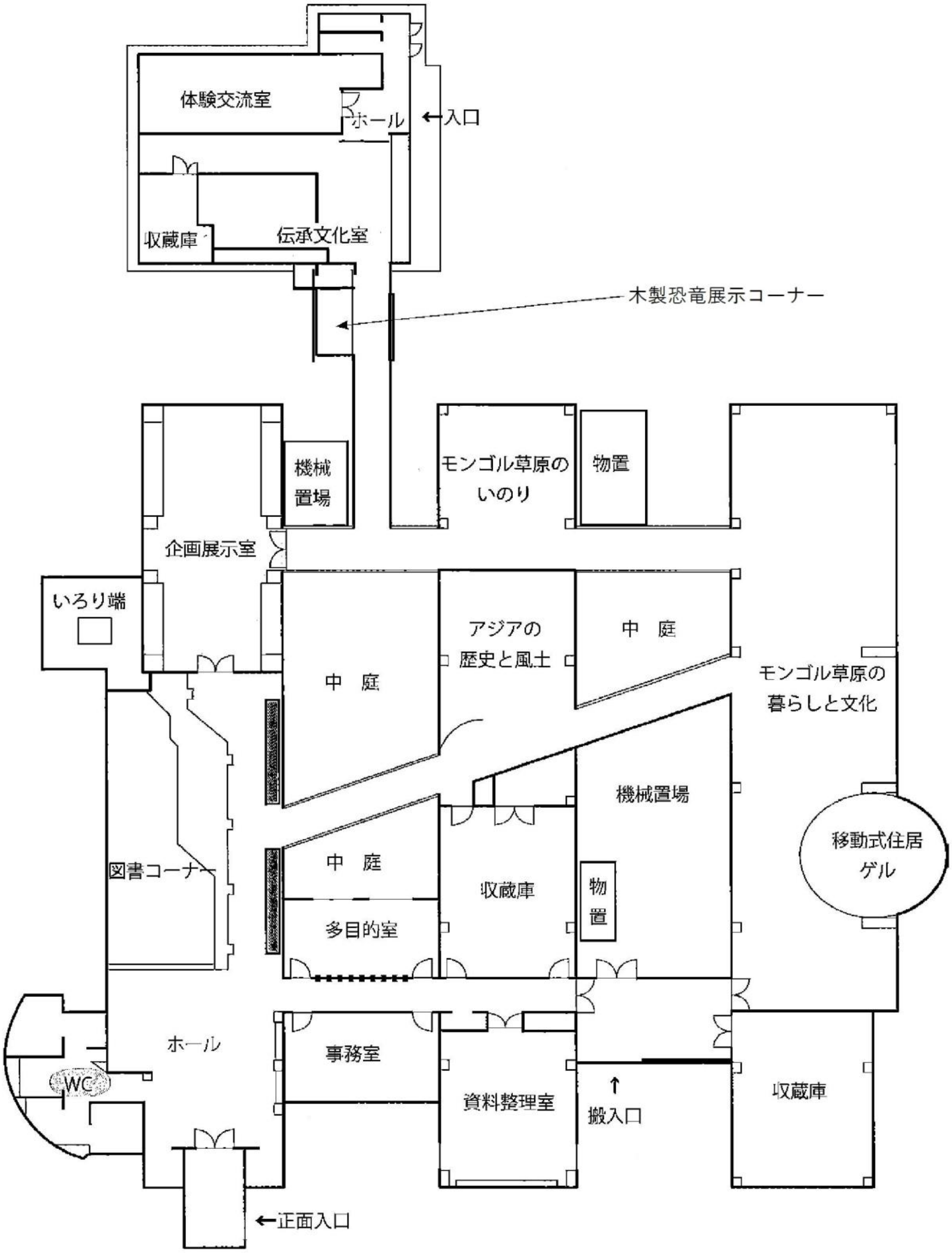
### (2) 伝承文化体験交流館建設概要

位　　置　兵庫県豊岡市但東町中山711
基本設計　建物・展示　井上良一建築設計事務所
実施設計　建物・展示　井上良一建築設計事務所
工事施工　建物　株式会社マルテン
　　　　　展示　株式会社ナギサ建築工芸
工　　期　建物・展示　着工　平成11年9月14日
　　　　　　　　　　　竣工　平成12年3月29日
敷地面積　317.57㎡
構造概要　一部鉄筋コンクリート造　木造瓦葺
各室面積　体験交流室　62.6㎡、展示室「豊岡市たんとうの暮らしと文化」112.5㎡、シルクロード(回廊)5　36.4㎡、収蔵庫　27.2㎡
建物規模　平屋建て　東西12.8m　南北21.2m
　　　　　地上高7.1m
仕 上 げ　〈外装〉押出形成セメント板
　　　　　〈内装〉床　：モルタル下地タイルカーペット貼
　　　　　　　　　壁　：ビニルクロス貼　一部杉板張
　　　　　　　　　天井：化粧ＰＢ張　一部杉板張

(3) 配 置 図

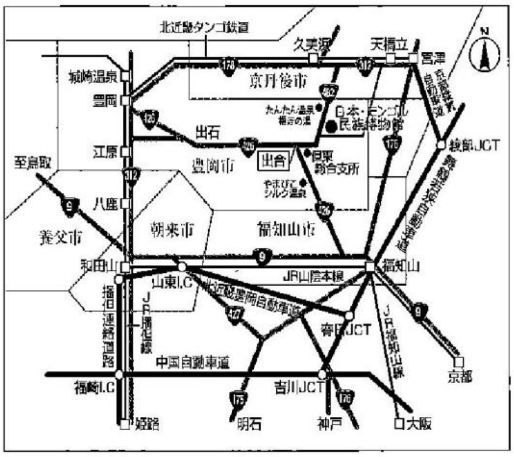

豊岡市立資母体育館
豊岡市南警察署
中山駐在所
移設復元した赤坂古墳
駐 車 場
ヤギ小屋
芝 生
太
田
川
芝 生
騎馬像
芝 生
駐車場
宮 津
天橋立
主 宮津八鹿線
出石
豊岡
芝 生

（4）館 内 図



体験交流室
ホール
←入口
収蔵庫
伝承文化室
木製恐竜展示コーナー
機械置場
モンゴル草原のいのり
物置
企画展示室
いろり端
中 庭
アジアの歴史と風土
中 庭
モンゴル草原の暮らしと文化
中 庭
機械置場
図書コーナー
中 庭
収蔵庫
物置
移動式住居ゲル
多目的室
ホール
事務室
WC
資料整理室
↑
搬入口
収蔵庫
←正面入口

## 12. 交通案内




■ JRで（山陰線）
豊岡駅よりバスで約60分　出石で乗り換え（奥藤行き）モンゴル博物館前下車

■ お車で
大阪・神戸方面…舞鶴若狭自動車道
福知山ICより約60分
京都方面…京都縦貫自動車道～宮津与謝道路
与謝天橋立ICより30分
姫路方面…播但連絡道路～北近畿豊岡自動車道 和田山八鹿道路 八鹿氷ノ山IC
より約60分

## 13. 利用案内

| | |
|---|---|
| ■ 開館時間 | 9時30分～17時<br>（入館は16時30分まで） |
| ■ 休 館 日 | 水曜日（祝日の場合は翌日）<br>年末年始（12月28日～1月4日）<br>展示替えによる臨時休館 |
| ■ 入 館 料 | 一　　　般　500円（450円）<br>高校・大学生　300円（250円）<br>小学・中学生　200円（150円） |

※（　）内は20名以上の団体の場合
※障害者手帳をお持ちの方は各料金の半額
※65歳以上の方は半額
※兵庫県内の小・中学生はココロンカードの提示により無料

**豊岡市立日本・モンゴル民族博物館年報第16号**

**Annual Report of the Japan Mongolia Folk Museum**
**No.16（for the fiscal years of 2014）**

〒668-0345　兵庫県豊岡市但東町中山711

711 Nakayama.Tanto-town,Toyooka-city,Hyogo Pref.668-0345 Japan

TEL 0796-56-1000　　FAX 0796-56-1022

URL http://www3.city.toyooka.lg.jp/monpaku/index.html

E-mail monpaku@city.toyooka.lg.jp

**発行／豊岡市立日本・モンゴル民族博物館**

平成 27 年 3 月 31 日発行